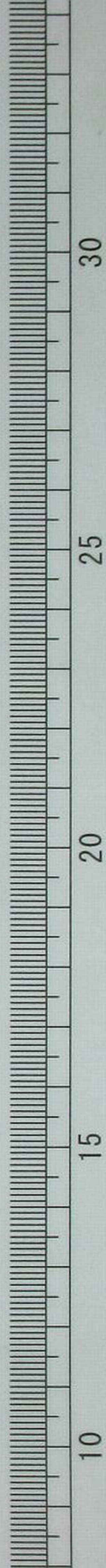




柳田文庫
文庫11
A1461
2



文庫 11
A1461
2

年月日

部

柳田泉文庫

010190528168

泰西勸善訓蒙卷之中

泰西勸善訓蒙卷之中

在厚郡羽田町東町百五拾貳番地
菅油藤造 小野半爾
算作麟祥 譯述

第四篇 人ニ對スル務

第六十一章

人ノ此世ニ生レタルハ己一身ノ爲メノニア
ラス國ノ爲メ他人ノ爲メ族人ノ爲メ亦爲ス可
キ所アリ故二人ハ皆人ニ對シテ行フ可キノ務
アリトス

第六十二章

力
川
家
行
編
卷
中
石
卜
堂
藏
反

人ニ對スル務ハ次ノ二訓ヲ以テ其基本トス曰ク

- 一 己ノ欲セサル所人ニ施ス_レ勿_レ
- 二 己ノ欲スル所之ヲ人ニ施_レ人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如クス可_シ

第一ノ訓誨ハ公道ヨリ生スル務ヲ云ヒ第二ノ訓誨ハ仁愛ヲ施スノ務ヲ云フ

第六十三章

人ニ對スル務ハ又之ヲ二種ニ分ツ其一ハ尊卑ヲ論セス總テ人ニ對_レテ爲ス可キ務ヲ云ヒ其

一ハ家人ニ對スル務國ニ對スル務及人ノ職分身位ニヨリ其爲ス可キ務ノ如ク人々各自ノ務ヲ云フ

第一款 公道ヨリ生スル務

第六十四章 公道トハ人ニ對_レテ必ス爲ス可キ諸件ヲ行フヲ云フ

第六十五章

人ノ害ヲ爲サス人ノ財貨ヲ奪ハス人ノ品物ヲ保有セス人ノ物ヲ毀損セス人ノ物ハ妄ニ之ヲ

撫弄セス、人ヲ誹謗セス、人ノ徳ヲ稱シ人ノ善ヲ敬スルニ毫モ妬心ヲ懷カス總テ己ノ欲セサル所ヲ人ニ施サ、ルハ公義ヲ守ラントスル者ノ必務ナリ

第六十六章

人ニ對シテ行フ可キ務ノ首タルモノハ人ノ性命ト自主トヲ害セサルニ在リ
故ニ人ハ他人ヲ苦シメ他人ノ自主ヲ妨ケ他人ヲ禁錮スルノ權ナク其權ハ國ノ律令ニ循ヒ惡人ヲ罰スル爲メ官府ニテ之ヲ行ヒ或ハ父母師

傳其子弟ヲ戒ハル爲メ之ヲ行フ可キモノトス
若シ其權ナキ者恣ニ之ヲ行フ時ハ官府必ス之ヲ謹罰ス

私鬪

第六十七章

前章ノ教ト自裁ヲ禁スルノ教トヲ兼テ之ヲ思料スル時ハ私鬪ハ嚴ニ禁ス可キモノタルヲ知リ得可シ蓋シ鬪争ヲ爲ス者ハ人ノ性命ヲ害スルニ非サレハ必ス己ノ性命ヲ害スルヲ答アリ故ニ人辱ヲ受ケタル時ハ我曰ハ彼ニ挑鬪ス可

ラス又彼ヨリ招鬪スルト雖モ之ヲ肯ス可ラス
人ヲ辱メタル時ハ直ニ悔悟シテ我カ爲ス所ノ
罪ヲ謝ス可シ蓋シ此時ニ當リテ彼ノ怒ニ逆ヒ
其挑鬪ヲ肯シテ更ニ己ノ罪ヲ重ヌルヨリハ我
ノ罪ヲ謝シテ彼ノ寛裕ヲ乞フヲ更ニ胆カアリ
トス

第六十八章

凡ソ人タル者ハ國ノ律令ト勸善ノ教トニ從ヒ
己ノ徳ヲ全フシテ人ノ益ヲ爲ス可キ者ナリ故
ニ苟モ人ヲ奴隸トナシテ其意ニ戾リ強テ之ヲ

苦逐スルハ國ノ律法ト勸善ノ教トニ背クノ大
罪ナリ

盜奪

第六十九章

人ノ務ハ唯他人ノ性命ト自主トヲ害セサルヲ
以テ足レリトセス人ノ所有スル品物モ亦
妄ニ之ヲ得ント欲スルコト勿レ訓誨ノ語ニ曰ク
人ノ財貨ヲ取ラント欲スルコト勿レ又人
ノ財貨タルヲ知リテ之ヲ保有スルコト勿
レ

他人ノ害ヲ爲サス又己ノ所有ニ非サル物件ハ
 之ヲ其主ニ還與スル^{羅馬}ノ古代ニ於テ既ニ
 其律令在リ
 盜奪ハ人ニ屬スル物件ヲ理ナクシテ己ノ有ト
 爲スニアリ故ニ之ヲ嚴禁トス
 人如何ニ窮乏ニ及フト雖モ他人ニ屬スル物ヲ
 盜奪ス可ラス蓋シ貧人ハ固ヨリ撫恤ス可キ者
 ト雖モ救貧ノ方法備ハリシ國ハ言ヲ待タス何
 レノ地ニ於テモ貧者己^ノ赤貧ヲ以テ口實ト爲
 シ竊盜ヲ爲ス可カラス

勸善ノ道ト國ノ法律トハ皆嚴ニ盜掠ヲ爲スヲ
 禁ス

子其父母ノ物ヲ盜ムニ於テハ勸善ノ道ニ背ク
 ノ罪更ニ重シトス

第七十章

人ノ家室及ヒ囊裏ニ在ル金銀家什ヲ奪フノミ
 ヲ盜トセス人ノ田野園庭ニ在ル菓實ノ類ヲ竊
 ムモ亦之ヲ盜トス
 故ニ人ハ微物ト雖モ凡テ己ニ屬セサル物ヲ理
 ナクシテ得ントス可カラス

背信

第七十一章

人ヨリ他ニ交付ス可キ爲メ我ニ托シタル金銀
貨財ヲ己ノ用ニ供スルハ法國ノ法律ニ之ヲ背
信ノ罪ト云ヒ盜罪ヲ犯スノ類ト爲シ嚴ニ之ヲ
罰ス

第七十二章

我ノ身位職務ノ如何ナルヲ問ハス人ヨリ附托
ヲ受ケタル財貨ハ決シテ己ノ用ニ供スルヲ勿
レ

人ヨリ借リタル物ヲ還與セサルハ人ノ所有ノ
權ヲ奪フモノナリ故ニ亦盜ノ類トス

第七十三章

人ヨリ附托ヲ受ケシ物ヲ還與セサルハ是亦盜
罪ニ類スルモノニシテ之ヲ背信ノ罪トシテ謹
罰ス

第七十四章

人自カラ價額ヲ償フヲ能ハサルヲ知り酒樓客
舍ニ於テ飲食ヲ爲シ又ハ飾粧ノ品料ヲ買フハ
是亦盜罪ヲ犯スノ類ナリ

第七十五章

僕婢從者等其主長ヲ欺キ其買フ所ノ物件ニ過多ノ價ヲ償ハシムルハ是亦背信ノ罪ニシテ盜ノ類ナリ

又僕婢雇丁其主長ノ許可ヲ得スレテ私ニ他人ノ役ヲ取り利ヲ得ルヲ謀リ又ハ其主長ノ命スル所ヲ爲ス時陰ニ其事ヲ怠タル者ハ是レ又背信ノ罪アリトス

第七十六章

賭博ハ固ヨリ之ヲ禁ス然レトモ賭博ヲ爲スニ

詭欺ヲ以テ勝チタル者ハ更ニ其罪ヲ重スル者トス

此罪ヲ犯ス者ハ人ノ賤ミヲ受ケ且ツ法國ノ法律ニテハ一年乃至五年ノ間獄ニ繫キ之ヲ懲罰ス

第七十七章

凡ソ人其債主ニ金ヲ還ヘシ其婢僕及ヒ雇丁ニ給金ヲ與ヘ貨物ヲ買ヒタル賈人ニ代料ヲ與フルハ勸善ノ道ト國ノ律令ト共ニ必ス之ヲ爲サシムルモノナリ是我ノ彼ヲ使役シ或ハ彼ヨ

リ資益ヲ得ルニ因リ其報ヲ爲ス所ニシテ若シ
其償ヲ爲サル者ハ人ノ物件ヲ借り之ヲ還與
セサルニ等シキ罪アリトス

債ヲ負フタル者費用ヲ節シテ其借額ニ因リ得
ル所ノ利益ヲ貯ヘス之ヲ無益ニ費ス時ハ其債
主ニ對シテ罪アリトス是其金ハ己ノ金ニ非ス
シテ其實ハ債主ノ金タルニ因レノ

古ヘ波斯國人ハ債ヲ負ヒ之ヲ還濟セサル者ヲ
説シヤ者ナリトシテ賤ミタリ
遺失物ヲ見出セシ時ノ務ナリトス

第七十八章

入市街等ニテ物ヲ拾ヒタル時ハ其國ニテ定ム
ル所ノ法式ニ循ヒ其物件ノ種類ト之ヲ見出シ
タル地トヲ公ケニ告知セシメ其所有者ヲ尋ヌ
可シ○法國ノ法式ニテハ大抵之ヲ新聞紙ニ記
シ又ハ鼓ヲ鳴シテ公告シ或ハ救教師ニ乞ヒ講
臺ニテ其由ヲ來聽者ニ告知セシムル等ナリ
第七十九章
此ノ如ク公ケニ告知セシメ後猶其所有者ヲ
知り得サル時ハ之ヲ丁寧ニ藏シ置キ日後其所

有者ヲ知り得タル時之ヲ還與ス可シ
藏シ置クヲ三十年ヲ經タル後ハ其見出シタル
者法律上ニテ其所有者タルヲ得可シト雖モ公
義ヲ守ル者ハ真ノ所有者ヲ知り得タル時直チ
ニ之ヲ還與ス可シ苟モ之ヲ還與スルヲ肯セサ
ル者ハ善道ニ合ヒタルト謂フ可カラズ

第八十章

遺失物ヲ見出シタル時其事ヲ公ケニ告知セシ
メ其所有者ヲ尋ヌルヲ爲サス陰ニ己ノ利益
ヲ謀ル者ハ竊盜ノ罪アリトス是レ其物ハ其實

之ヲ失ヒシ者ニ屬スルニ因レリ

第八十一章

若シ物件既ニ數年間埋没シテ其所有者ヲ知ル
可ラサルト分明ナル時ハ之ヲ見出シタル者其
所有者トナル可シ
若シ數年間埋没シタル物ヲ他人ニ屬スル土地
又ハ家屋ノ中ニテ見出シタル時ハ其土地又ハ
家屋ノ主ト其見出シタル者ト各其半ヲ分ツ可
シ

約ヲ守ル可キ務

第八十二章

人ニ物ヲ與ヘント約シテ之ヲ與ヘス人ト約シタル事アリテ其約ヲ踐サル者ハ是レ又人ニ害ヲ爲スノ咎アリ凡ソ人ニ附與セント約シタル諸物ハ其實既ニ我ニ屬セスレテ彼ノ所有ニ歸スルニ因リ如何ニ其事ヲ後悔シ又ハ幾許ノ損失アリト雖モ之ヲ其約ノ如ク行ハサルヲ得ス故ニ國ノ法律勸善ノ教ニ循ヒ左件ヲ定ムルハ宜ナリトス

互ニ誠意ヲ以テ爲シタル契約ハ其雙方

ノ間ニ在ルハ猶法令ニ等シキ効アルモ
ノニレテ必ス之ヲ正實ニ行フ可シ
苟モ公道ヲ守ル者ハ争アル時其對手ヲレテ已
ノ契約ノ証書ヲ出サシムルヲ要セス自カラ
約シタル言詞ハ猶國ノ法律ニ等シク速力ニ之
ヲ行フ可シ

第八十三章

人惡業ヲ爲サシト約定スルハ是レ不善ノ一ニ
シテ又其約定ノ如ク實際ニ行フ時ハ更ニ其不
善ヲ重ヌルノ理ナリ

第八十四章

故二人ハ正理ニ合ヒ行ヒ得可キ事ノ之ヲ約
シ其約ハ心ス正實ニ之ヲ守ル可シ

第八十五章

人其約シタル所ニ背クハ不善ノ甚シキモノト
ス蓋シ背約ノ者ハ必スレモ法律ニ於テ罰ヲ受
クルトナレト雖モ衆人ノ賤ミヲ免ルハ一能ハ
ス故ニ人ハ幾許ノ利益アリトモ又ハ如何ナル
危難アリトモ又ハ性命ヲ危ウスルニ至ル可キ
恐アリトモ一旦約シタル所ハ正シク之ヲ行ハ

ハ得ス

第八十六章

既ニ人ニ物件ヲ附與シテ復タ之ヲ取還スハ猶
盜罪ヲ犯スニ等シトス何トナレハ其物件ハ既
ニ彼ノ有トナリ我ニ屬セヌ故ニ彼ノ承諾ナ
之ヲ取還ス可カラサルニ因レリ

第八十七章

他人ノ財産ヲ不正ニ己ノ有ト爲シタル者ハ之
ヲ還與シカメテ其損害ヲ償フ可シ

己ノ有スル物其實他人ニ屬ス可キ時ハ必ス之

ヲ還與ス可キノ務アリ蓋シ此務ハ己ノ爲メ幾
許ノ損失アリトモ之ヲ行ハサル可ラス古羅馬
ノ博士「セ子カ曰ク

我カ門ヲ開キテ我カ財産ヲ衆人ニ示シ
其財産中他人ノ討索スル物アラハ速ニ
携ヘ歸ル可シト言フヲ得ル者ハ眞ニ富
者ナリト稱ス可シ

第八十八章

他人ノ所有物ニ損害ヲ加フルナキヲ欲スルニ
ハ苟モ他人ニ屬スル家屋田野樹木等ハ毀傷損

害スル自ナク禾實ノ生シタル土地ニ妄ニ經過
スルヲナク墻塼ノ如何ニ矮疎ナルモノト雖モ
其圍繞シタル地ニハ入ルル勿レ蓋シ土地ノ所
有者人畜ノ其地内ニ入ルヲ防カントスルノ意
タルヲ知得ス可キ証アル時ハ縱令纜力ニ一
竿ヲ用テ限界ヲ爲シタル地ト雖モ妄ニ其
内ニ入ル可ラス
第八十九章
此等ノ教ニ從ハス惡業ヲ爲ス者ハ唯勸善ノ道
ニ背ク數ニ非ス又國ノ法律ニ背クニ因リ罰

金ヲ言渡サレ或ハ繫獄ノ刑ニ處セラル可シ

第九十章

妬心ヲ以テ人ノ材能善徳ヲ賤メ又ハ人ノ意思ヲ知ラスシテ其所行ヲ誅ル可カラス是亦公道ニ依附スル者ノ守ル可キ務ナリ

誅謗讒誣

第九十一章

誅謗トハ人ヲ謗リ人ノ名目ヲ損スル諸件ヲ言フニアリ
誅謗ヲ爲ス者ハ其誅謗セントスル者ノ面前ニ

於テ之ヲ言フヲ稀ニシテ大概其在ラサルヲ窺ヒ陰ニ之ヲ言フモノ多シ故ニ誅謗ヲ爲ス者ハ怯懦ナル者ヲ以テ居多ナリトス
善ニ循フ者ハ戯言ト雖モ誅謗ヲ爲スヲナシ

第九十二章

讒誣トハ惡業ヲ爲サハル者ヲ惡業ヲ爲シタリト言ヒ其徳望面目ヲ失ハレム可キ諸件ヲ誅リ説ク云フ故ニ讒誣ハ詭偽中ノ最モ甚レキモノニシテ唯勸善ノ教ニ背クノミニ非ス亦國ノ法律ヲ犯スノ罪アルニ因リ其罰ヲ受ク

第九十三章

人ハ唯他人ヲ誅謗讒誣セサルノミヲ以テ猶未
タ足レリトセズ縱令極密ト雖モ人ノ害トナル
可キ言詞ヲ用フ可カラズ若シ朋友ノ之ヲ爲ス
者アル時ハ之ヲ制止スヘレ
凡ソ妄ニ人ノ惡ヲ舉ケテ之ヲ謗リ或ハ不善ヲ
爲サ、ル者ヲ指レ之ヲ爲レタルト誣ル時ハ其
産業ノ一部ヲ竊取シタルヨリ更ニ大害アリト
ス可シ

虚誕

第九十四章

自カラ事ノ偽ナルヲ知リテ之ヲ信誠ナリト言
フヲ虚誕ヲ説クト云フ
又己ノ言ヲ可キ件々ヲ故ラニ言ヒ盡サス又ハ
己ノ説話スル所ニ偽説ヲ混淆スル時ハ是レ亦
虚誕ヲ説クノ由トス
故ニ公衙ニ於テ証人ノ陳フ可キ誓詞ハ左ノ如
レ曰ク

余誠實ヲ述ヘ盡ク誠實ヲ述ヘ誠實ノ外
述ヘサルヲ誓フ

舊唐書 卷中

第九十五章

虚誕ヲ説ク者ハ人ヲ欺キ己ノ惡業ヲ掩ハント
爲スニ因リ之ヲ大罪ヲ犯レタルトス可シ

第九十六章

虚誕ヲ説クハ固ヨリ天道ニ背クモノニシテ人
一旦此惡習ヲ得ル時ハ容易ニ之ヲ改ムルヲ能
ハス故ニ戯ト雖モ虚誕ヲ説ク可ラス

第九十七章

常ニ虚誕ヲ説ク者ハ時アリテ信誠ノ一ヲ言フ
ト雖モ人之ヲ信受セス

誓詞

第九十八章

誓トハ己ノ述ル諸件又ハ己ノ爲ス約束ノ確的
ナルヲ天ニ據テ証スルヲ云フ
故ニ人誓ヲ爲ス時盡ク誠實ヲ述ヘ且ツ誠實ノ
外述ヘサル可キノ教ニ背クハ天ニ對レテ罪アリトス

第九十九章

誓ヲ爲スニ足ラサル細事ニ付テハ無益ニ誓ヲ
爲ス可ラス

勸善言蒙前録

舊善訓蒙前終 卷中 中夕堂藏片

平常誠實ノミヲ述ル者ハ事ニ臨テ信ヲ人ニ得
ニカ爲メ誓ヲ爲スニ及ハス又屢詐僞ヲ言フ者
ハ誓ヲ爲スト雖モ人之ヲ信セス故ニ誓ハ大事
アリテ己ムヲ得サルニ至ル時之ヲ述フ可シ平
日輕易ニ誓ヲ爲スト勿レ

第百章

誓ハ至重ノモノ故法國審院ニテ證人誓ヲ述ハ
タル後其詐僞タルトノ發覺カハレシヨシタル時ハ平常十
年間囚獄ノ刑ニ處セラレ若シ本人更ニ嚴刑ニ
處セラル可キ時ハ証人モ亦隨テ嚴刑ニ處セラ

ル故ニ誓ヲ詐僞ヲ述ベタル証人ハ終身ノ徒刑
又ハ死刑ニ處セラルトアリ

第百一章

國ノ法律ニテ詐僞ヲ述フル証人ヲ罰スルト斯
ク嚴ナルハ詐僞ハ人ノ惡ム可キモノタルニ因
レリ凡ソ詐僞ヲ言フ者ハ衆庶ノ忌嫌ヲ得誠實
ヲ言フ者ハ衆庶ノ尊敬ヲ受ク可シ

第百二章

古希臘ノ「セノクラテオ」ト云ヘル學士ハ平生身
行正シク詐僞ヲ言フヲナキカ故或時証人トナ

力善川家行編 十六 中夕堂藏片

リテ審院ニ出テ規律ニ循ヒ誓ヲ述ヘントセシ
ニ審司之ヲ止メタリ是此人ノ言フ所常ニ偽リ
ナクシテ信ヲ衆人ニ得タルニ因レリ

第百三章

羅馬ノ將レギユルス兵ヲ率井テ「カルテ」ジヲ攻
メ戰敗レテ敵ニ虜セラレシ時敵兵「レギユルス」ニ
其國ニ歸リ羅馬ヲシテ其汚辱トナル可キ和議
ヲ講セシムルニ盡力セハ之ヲ免ス可シ若シ其
和議整ハサレバ再ヒ「カルテ」ジノ陣ニ至リ悻
虜トナル可キヲ命レタリ「レギユルス」ハ其誓ヲ

述テ歸テ羅馬ノ京城ニ至リシ時羅馬ノ官吏等
和議ヲ講スルノ可否ヲ問フ「レギユルス」答テ曰ク
必ズ和議ヲ講スルコトナク奮戦ス可シト然ル後
嘗テ誓セシ如ク復タ敵陣ニ赴キ縱容死ニ就キ
タリ是レ敵ニ爲シタル誓ト雖モ亦背カサルノ
龜鑑ナリ
又法蘭西ト「ブラ」ドト戰アリシ時法國王「ヒ
ル」プ「ラ」ドルヲ征服スル能ハス百計盡キテ
「ク」ラン「ボ」ルノ老公獄中ニ在シテ放チ自カラ
其國ニ至リ士民ニ法國ニ降ル可キヲ論ス可

シト命シタリ老公法國ヲ去テ其國ニ至リ却テ
士民ニ法ト力戦ス可キヲ説キ死ヲ懼レス復
タ法王ノ陣ニ赴キテ擒ニ就キタリ
又法國王「ジヨン」第二世「ボワチエ」ノ戦ニ英軍
ニ敗ラレ俘虏トナリシ時三百萬「エキ」ノ贖金
ヲ出ス可キノ約ヲ結ヒ其身ヲ免ル、アガナヒ「アガナヒ」ヲ得シ
カ當時法國ニテ其金額ヲ徵辦スル「能ハサル
ニ因リ王已ム」ヲ得ス其子ヲ質トシテ英ニ送
レリ然ルニ其王子英國ヲ逃レ國ニ歸リシニ因
リ王信義ニ背クヲ恐レ復タ自カラ英國ニ赴キ

テ擒ニ就キ終ニ英ニ於テ歿シタリトゾ

慎重

第百四章

慎重トハ他人ノ事ニ付キ輕易ニ談話評説ヲ爲
サス殊ニ人ヨリ托セラレシ密事ヲ洩露セサル
ノ徳ヲ云フ

第百五章

人ヨリ托セラレタル密事ハ之ヲ妄ニ洩ス可カ
ラス若シ之ヲ洩ス時ハ其人ニ對シ信義ヲ破リ
タルト謂フ可シ是恰モ人ニ屬スル物件ヲ妄ニ

我カ意ノ如ク爲シタルト其理等シケレバナリ

第百六章

官吏其國ノ密事ヲ洩シ工長サクシ訂其製造ノ秘事ヲ漏シタル時ハ國ノ法律ニ於テ之ヲ嚴刑ニ處ス

好奇ノ意 書ヲ開封スル事

第百七章

人ヨリ委託ヲ受ケタル密事ハ之ヲ洩露ス可カラサルト同一理ニシテ人ノ我ニカク隱蔽セント欲スル密事ハ之ヲ知ラント要スルヲ嚴禁ナリ

第百八章

人ノ密事ヲ知ラントスルノ念甚シクシテ人ノ書信ヲ開封スルニ至ル時ハ其咎大ナルニ因リ法律ヲ以テ之ヲ罰ス 智識ノ訓誨ニ曰ク

人ノ密事ヲ知ラント欲スルヲ勿レ

己ノ秘事ハヨクシテ貌装ナク之ヲ包メ

踐約

第百九章

踐約ハ人ニ對シ行フ可キ務ノ一ニシテ我カ嘗

テ約シタル地ト時トニ於テ其約シタル如ク精細ニ事ヲ行フヲ云フ凡ソ約ニ背ク者ハ人ニ損害ヲ加ヘ人ヲシテ無益ノ時月ヲ費サシメ又人ヲシテ忿怒ノ意ヲ生セシム

第百十章

人其父母師傅君長ニ對シテ約ニ背ク時ハ其咎更ニ大ナリトス

顧恩

第百十章

法國ノ學士「ラハルプ」ノ曰ク

顧恩ハ善心ノ樂ミナリ

顧恩トハ己ニ益ヲ授ケシ者ヲ常ニ思慕敬重シ

テ其恩ニ報ユルヲ云フ

第百十二章

人ヨリ恩ヲ受ケタル時ハ必ス之ニ報ユ可キヲ

猶人ヨリ借リタル金貨ヲ還ス可キニ等シ

羅馬ノ學士「ゼ子カ」ノ曰ク

恩ヲ受ケテ之ニ報イサルハ恰モ人ヲ欺

テ財貨ヲ借リ家資ヲ分散シタル者ノ如

第百十三章

天ハ我ニ無量ノ恩ヲ授ケタルモノナリ故ニ我
其恩ヲ顧ミサル可ラス
父母ハ我カ幼稚ノ時愛育シタルモノナリ故ニ
我其恩ヲ顧ミサル可ラス
國ハ我カ衆人ト交ハルニ付キ利益ヲ授クルモ
ノナリ故ニ我其恩ヲ顧ミサル可ラス

忘恩

忘恩ハ善心ノ樂トシテ

忘恩ハ顧恩ニ及レテ己ノ受ケタル恩ヲ忘ル、
ヲ云フ

第百十五章

忘恩ハ邪僻ノ心アル負債者其還スヲ得可キ金
貸ヲ故ラニ還サバルニ等レトス

第百十六章

昔波斯國ニテハ忘恩ヲ重罪トシ人ノ恩ニ報ユ
ルヲ得可キニ故ラニ之ヲ顧ミサル者ヲ嚴ニ
譴罰セリ是忘恩者ハ天ヲ敬レ父母ヲ尊ミ國ニ
報イ朋友ニ親ム等ノ事ヲ爲サバルニ因ル

第一百十七章

方今ハ法律上ニ忘恩者ヲ罰スルコトナシト雖モ
衆人皆忌惡ス可キ不善者ト爲シテ之ヲ賤辱ス

第一百十八章

縱令ヒ人我カ授ケタル恩ヲ忘ル、ト雖モ我レ
善ヲ爲スニ怠ル可ラス

私欲

第一百十九章

私欲トハ其身ノミヲ愛重シ其身ノ事ノミヲ深
慮シ人ヲ顧サル不善ヲ云フ

第一百二十章

人ノ此世ニ在ルヤ必ス朋友ト交リ相敬愛シ相
扶助ス可キモノナリ故ニ私欲ノミヲ達セント
スル者ハ人ニ忌惡セラレ
人私欲ハ甚シキニ及テハ唯己ノ身ノミヲ愛シ
父母兄弟親友ト雖モ捨テ全ク其恩ヲ顧ミサル
ニ至ル可シ

第一百二十一章

前ニ記載シタル數箇ノ務ハ人ノ互ニ行フ可キ
公道ヨリ生スル務ナリ夫レ人苟モ

己ノ欲ヤサル所人ニ施ス勿レ
ト云ヘル訓誨ヲ忘レサレハ容易ニ其務ヲ行フ
トヲ得可シ

古羅馬帝アレキサンドルレイベラスハ此訓言
ヲ尊ミ其殿堂ノ墻壁及ヒ所々ノ宮室ニ之ヲ刻
ミ記サレメタリ

人ハ此訓言ヲ常ニ思念シ之ヲ心ニ銘シテ忘ル
、ト勿レ

第一百二十二章

公道ヨリ生シタル務ヲ守ルヲ誠實ト云フ

誠實ハ善美ナル徳ノ一ニシテ古學士ノ語ニ誠
實ナルハ尚ホ榮譽アルニ等シト言ヒレモ亦宜
ナリトス

兒童教訓ノ語ニ曰ク幸ナクハ昔々愚妄スルハ
汝ノ好ム所ノ如何ナルヲ問ハス常ニ誠

實ノ心ヲ失フト勿レ
第二款命仁愛ノ務

國君人ヲ仁ミ人ヲ愛スレハ士民皆之ニ倣フ
故ニ其國幸福ヲ受ク可シ

第一百二十三章

人ノ務ハ公義ニ協ヒ他人ニ害ヲ加ヘス又己ニ
 屬セサル物ヲ其主ニ還與スルノミヲ以テ足レ
 リトセス亦仁愛ノ道ヲ行フ可シ
 仁愛ハ其性命産業ヲ失ハントスル者及ヒ窮乏
 ナル者ヲ扶助シ惡人ノ爲メ襲撃劫掠ニ逢フ者
 ヲ保護シ老衰重病ニテ自カラ生計ヲ爲ス可
 ハサル者ヲ救濟シ不幸ナル者ヲ慰安スルニ在
 リ

第二百二十四章

古ノ訓誨ハ

正直ニ生業ヲ爲シ人ニ害ヲ加ヘス己ニ
 屬セサル物ハ之ヲ其主ニ還ス可シ
 又己ノ欲セサル所人ニ施ス可レ
 トノ教ノミナリ

第二百二十五章

然ルニ近世ノ訓誨ニハ人ノ務ノ中ニ仁愛ノ務
 加ヘ
 己ノ欲スル所之ヲ人ニ施シ人ヲ愛スル
 己ヲ愛スルカ如ク不可レ
 下ノ語ヲ増シタリ

古ノ人民ニモ既ニ此教ニ從ヒシ者アリテ「エジ
 プト」ニテハ人ノ賊徒ニ襲ハル、ヲ見テ救ハザ
 ルノ証アル者ヲ死刑ニ處シタルコトアリ
 故ニ人ノ財産ハ之ヲ己ニ取ラス人ニ屬スル物
 ハ之ヲ還與スルノミニテハ尚ホ全善トセス亦
 人ヲ扶助シ勉メテ人ニ恩惠ヲ施スヲ要トス

第二百二十六章

凡ソ四海中皆兄弟ニシテ人ノ出處人ノ性情人
 ノ命運皆相等シキモノナリ故ニ人互ニ仁愛ス
 可キト是レ其務ナリ

施恩

第二百二十七章

施恩トハ人ニ善ヲ施スノ徳ヲ云フ

第二百二十八章

「セ子カ」ノ曰ク施恩ハ人ニ幸福ヲ授クル好意ノ
 行ナリ

第二百二十九章

人ハ互ニ愛恤シ互ニ扶助ス可キ者ナリ故ニ施
 恩ハ人タル者ノ務ナリ

第二百三十章

...

人如何ニ窮乏卑賤ナリト雖モ他人ニ恩ヲ施ス
コトヲ得可シ

富貴ノ者ハ貧賤ノ者ヲ恤ミ恩ヲ施ス可シ
財貨ヲ有セスト雖モ身體ノ壯康强健ナル者ハ
危難ニ逢フ者ヲ救ヒ重荷ヲ負フ者ヲ助クル
ヲ得可シ是レ亦施恩ノ一ナリ

第百三十一章

人ニ恩ヲ施スハ常ニ正理ニ基ク可シ故ニ善惡
ノ差別ナク濫リニ人ニ恩ヲ施ス可ラス是レ惡
人ニ恩ヲ施ス時ハ却テ其惡ヲ助クルコトアルニ

因レハナリ

第百三十二章

人ハ己ノ産業ト他人ノ窮乏トヲ比較シ以テ恩
ヲ施ス可シ

施恩ノ務ヲ行フヤ誠實ノ意ニ出ル時ハ天ノ照
覽ニ因リ自カラテ天ヨリ之ヲ賞ス可シ故ニ恩ヲ
施スニ苟モ誇大ナル可ラス

教誨ノ語ニ曰ク
右手ヲ以テ人ヲ惠ム時左手ハ之ヲ覺エ
サル如クナル可シ

人ハ己ノ恩ヲ施シタル者ヲ賤ミ又ハ其報ヲ得
ント要ム可ラス

人ニ恩ヲ施シテ之ヲ誇リ終ニ人ノ誹ヲ
受クル者ハ其施恩ノ徳ヲ失フタルモノ
ト謂フ可シ

人其朋友又ハ貧者ニ恩ヲ施シレ雖モ其報ヲ得シ
トスルノ意ナキハ是レ施恩ノ旨趣トスル所ナ
リ
人ニ恩ヲ施スト雖モ後ニ其報ヲ得ントスルノ
念アル者ハ善ヲ行フニアラス唯恩ヲ交換スル

ノミ故ニ之ヲ稱譽スルニ足ラストス

好意

第一百三十三章

好意トハ人ニ善ヲ爲シ且ツ言詞及ヒ所行ニ因
リ人ヲ慰安スルノ意ヲ云フ

第一百三十四章

惡意ハ好意ノ反對ニシテ人ヲ困苦セシム可キ
ヲ云フ
口ニ説キ身ニ行ヒ又ハ妄ニ人ノ意ニ逆フ
苟モ人ヲ仁愛セント欲スル者ハ慎テ惡意ノ生

善言蒙前編 卷中 中文堂藏片

スルヲ避ク可シ

復讐

第百三十五章

人其過ヲ甘シテ自カラ恕スルカ如ク人ノ我ニ加ヘシ害モ亦之ヲ宥恕ス可シ是天ニ對シテ行フ可キ務ノ一ナリ故ニ復讐ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第百三十六章

復讐ハ兇猛ノ性ヨリ生スル所ナリ古羅馬ノ博理者ノ言ニ曰ク

人暴ヲ以テ暴ニ報イ復讐ヲ爲スハ恰モ犬狗ノ相咬ムカ如シ

羅馬ノアドリアン帝庶人タリシ時人ヨリ數多ノ害ヲ受ケタリシカ帝位ニ昇リシ後皆其罪ヲ免シ毫モ復讐ノ念ヲ生シタルコトナシ古法蘭西ノ國王路易第十二世ハ「アルレア」公タリシ時仇敵多カリシカ王位ニ昇ルニ及ヒ皆其罪ヲ免ルシテ曰ク法蘭西ノ王トナル者ハ「アルレア」公タリシ者ノ敵ニ復讐ヲ爲サスト

力善川農前編 卷中 二十八年 口卜堂藏反

第三百三十七章

方今教ル所ノ仁愛ノ道ニ於テハ人ノ復讎ヲ禁
スルノミニ非ス恩ヲ以テ却テ怨ニ報ユルヲ人
ノ務トス

第三百三十八章

私欲復讎ヲ禁シ人ヲ愛スルヲ猶己ヲ愛スルカ
如ク人ヲ救助シテ仇敵ト雖モ恩惠ノ施ス可キ
仁愛ノ務ヲ教ルハ是眞ノ道ナリトス

第三款 無生物ニ對スルノ務

第三百三十九章

凡ソ世上ノ諸物ハ皆天ヨリ人ノ爲メニ創造シ
タルモノナリ故ニ人之ニ對シテ行フ可キノ務
アリ

衆人共用ノ物又ハ己一身ニ屬スル物ヲ問ハス
妄ニ之ヲ損壞ス可カラス若衣服家什食物中ニ
己ニ要用ナラサル物アラハ之ヲ貧者ニ與フ可
シ

第三百四十章

人妄リニ樹木穀草ヲ毀損シ又蒸餅菓實及ヒ其
他有益ノ物ヲ徒ラニ棄ツルハ是天ノ賜物ヲ無

益ニ失フノ罪アリ若シ此等ノ物ヲ窮餒ノ者ニ
與フレハ恩惠ノ一端ナル可シ

第四款 有生物ニ對スル務

第四百十一章

人有生物ニ對スル務ハ我有ト他人ノ有トヲ問
ハス食用ニ供ス可キ獸類ヲ徒ラニ苦メス又家
室ニ畜ヒ置ク可キ獸類ハ愛撫シテ飼養スルニ
在リ

第四百十二章

法國ノ刑律ニ故ナクシテ家畜ヲ傷ケ又ハ殺ス

者ハ一日乃至五日間之ヲ獄ニ繫キ且ツ五フ
ラシク乃至十五フランクノ罰金ヲ出サシムル規
則アリ

泰西勸善訓蒙卷之中終

勸善訓蒙前編

卷中

三

中卜堂藏反

48-13823

